

いたばし市民フォーラム 23. 11. 23

- ▶ 「ジェンダー平等
- ▶ なにが変革を阻んできたのか」

- ▶ ジャーナリスト **国谷裕子**

11/20/2023

S D G sの多くの目標の根底には

人間の生きる権利、人権が流れている。

経営者は、それを理解し、共感を

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

代表理事 有馬利男

SDGs 「ジェンダー平等」

目標 5

「ジェンダー平等を達成し、すべての女性のエンパワーメントを行う」

目標 5 – 5

「あらゆるレベルの意思決定において、女性の参画と平等なリーダーシップの機会を確保する」

「持続可能な開発目標 2030 アジェンダ」

「ジェンダー平等は、

すべての目標とターゲットの進展に、

死活的に重要な貢献をする」

「男女共同参画」「女性活躍政策」から

「ジェンダー平等」へ



男女差別を無くし、
女性の人権を確立する

女性は競争力の源、経済成長の鍵。

家事・育児を両立できる環境をつくれば

社会全体は活性化する

ゴールドマン・サックス

マネージングディレクター（当時） **キャシー・松井**

日本の女性たちの潜在的な能力を

引き出すことが出来れば

一人当たりのGDPを4～5%伸ばせる

IMF（国際通貨基金）

専務理事（当時）**クリスティーナ・ラガルド**

「企業や自治体などの

女性管理職の割合が低い地域ほど

その地域からの女性の流出は大きい」

「企業や自治体などの

女性管理職の割合が低いほど

その地域からの女性の流出は大きい」



「性別役割分担意識」11/20/2022という壁

「若い世代は、自分の母親が、

育児もしながら、ガラスの天井を破ろうと

苦勞しているのを見ているので、

自分には出来ないと、上を目指さなくなる」

フェイスブック COO (当時)

シェリル・サンドバーグ

男女の性別役割分担意識が変わらないまま

家事・育児と仕事の両立で

「女性活躍」への期待が高まれば…

男女の性別役割分担意識が変わらないまま

家事・育児と仕事の両立で

「女性活躍」への期待が高まれば…

⇒ 女性たちへの新たな負担が

ジェンダー・ギャップ指数2023

世界経済フォーラム

日本の総合順位 125位 (世界146カ国)

経済分野 123位

政治分野 138位

教育分野 47位

健康分野 59位

「社会全体で見た場合、 男女の地位は平等になっているか」

内閣府「男女共同参画についての世論調査」 2022年調査

男性が優遇されている	78.8%
平等	14.7%
女性が優遇されている	4.8%

「あなたは 管理職を目指したいですか」

国立女性教育会館

「初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」より

	女性	男性
入社1年目	57.8%	94.0%

「あなたは 管理職を目指したいですか」

国立女性教育会館

「初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」より

	女性	男性
入社1年目	57.8%	94.0%
2年目	45.3	86.6

「あなたは 管理職を目指したいですか」

国立女性教育会館

「初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」より

	女性	男性
入社1年目	57.8%	94.0%
2年目	45.3	86.6
3年目	40.4	84.2

「あなたは 管理職を目指したいですか」

国立女性教育会館

「初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」より

	女性	男性
入社1年目	57.8%	94.0%
2年目	45.3	86.6
3年目	40.4	84.2



期待されていないことへの気づき

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

内閣府「男女共同参画についての世論調査」 **2022年調査**

そう思う	33.5%
そうは思わない	64.3%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

内閣府「男女共同参画についての世論調査」 2022年調査

そう思う 33.5%

そうは思わない 64.3%

(18歳～29歳)

そう思う 18.7%

そうは思わない 89.8%

「共働き世帯の家事育児時間」

総務省統計局「2021社会生活基本調査」

6歳未満の子供を持つ共働き世帯

2016年

夫 1時間24分

妻 6時間10分

2021年

1時間55分

6時間33分

東京藝術大学 美術系の女性比率

「ジェンダーバランス白書2022」より

学生 64.6%

常勤教員全体 22.8%

教授 9.6%

准教授 37.8%

講師 80.0%



11/20/2023

私たちの社会は、片方のエンジンだけで
空を飛んでいる飛行機のようなもの。

まだ活かされていない少女や女性たちによって、
私たちは目指したい未来を
達成することができる

国連副事務総長 アミーナ・モハメッド